

The Familiar Waterways which Moisten Life

暮らしを潤す 身近な水路



心ひかれる、水辺の空間。

水路研究会 編集

法人リバーフロント整備センター発行

松川いたち川

まつかわ・
いたちがわ

富山市中心部を囲うようにに流れている松川といたち川。松川はかつて富山城を守る堀として利用されるとともに、城下に物資を運搬する舟運路としても重要な役割を担っていた。松川べりは桜の名所として知られており、城下町を舟で巡る「七橋めぐり」が運行されている。

一方、常願寺川の常西合口用水を水源とするいたち川は、城下町の東側の住宅地を流下する。橋の袂には数多くの地藏尊や観音像などが祀られている。これらは、安政5年（1858年）の大地震で、山が崩れいたち川が氾濫し、多くの犠牲者がたため、その霊を慰めるものである。お参りする人の姿も多く、信仰心の深さを感じる。宮本輝の「蛭川」の舞台となった川でもある。



松川七橋めぐりの船着き場

歴史



石倉町付近の湧水には、地元の人達が水を汲みにきている

いたち川の水源である常願寺川は暴れ川として知られており、流域一体は洪水との闘いが繰り返されていた。明治24年（1890年）9月、常願寺川は大洪水が発生し、改修計画を立案したオランダ人技師デ・レイケは、常願寺川の上下流に分散していた取水口を一箇所にまとめる計画を提案した。これが現在の常西合口用水である。

常西合口用水

位置



水源



成り立ち





5 松川といたち川の合流部。右が松川で手前がいたち川である。



6 富山城の裏側に整備された松川沿いは、桜の名所となっている。



7 富山城の裏側に整備された松川沿いの親水公園。



3 両岸に桜が植えられているいたち川。住宅街の水と緑の潤い空間となっている。



4 橋の袂にまつられている観音像。